

テーマカフェ

## スーパー自治会活動を思いつく

2017年11月30日(木)



会費10万円でも入りたい自治会?!

## 歳末ボランティアフェア

2017年12月14日(木)



吹田市外からも参加いただきました

## サクサクすすめる会議術

1月20日(土)



講師のお手本にくぎづけ

11月のテーマカフェでは、自治会活動を面白くしていくためのアイデア出しを大喜利形式で行いました。20代~80代まで、幅広い世代の方が集まり、自治会長を務めておられる方から、自治会のない地域に住んでいるという方も。ユニークなアイデアが飛び交い、笑い声の絶えない会となりましたが、活動で感じる課題や、世代間による意見の違いなどが垣間見える貴重な機会となりました。最後に、出てきたアイデアの中から自分が実現したいと思うアイデアを発表し閉会しました。

これからボランティア活動を始めた方に向けて、市内で活動する15団体がブースを設け、活動紹介や個別相談を行いました。参加者の年齢も幅広く、活動について、団体から直接話を聞く機会が少ない中で、ゆっくり話を聞いて良かったとの感想がありました。ラコルタサポーターも、参加者の呼び込みや案内等で大活躍!

また、参加団体同士の交流もさかんで、普段接点のない団体が分野を越えて、お互いの活動を知り合うきっかけにもなりました。

特定非営利活動法人SEINの宝楽陸寛さんを講師に招き、ホワイトボードを活用した会議術について学びました。

3時間にわたる講座では、グループにわかれての実践が中心となりました。会議での意見は「発散→収束→活用」の3つに色分けをし、進行役がホワイトボードに書き込んでいきます。「意見を聞きながら書くのが難しい」という声もありましたが、「技術なので練習を積み重ねれば上達します」と講師からアドバイスがありました。

<p>ラコルタの講座・イベント</p> <p>どなたでもお気軽にご参加ください!</p>	<p>3月23日(金)</p> <p>市民公益活動団体向け会計講座</p> <p>現金出納帳から活動計算書の書き方について、税理士の講師から学びます。</p> <p>●とき: 14:00~16:00 ●定員: 先着20名</p>	<p>3月25日(日)</p> <p>南千里かえっこバザール</p> <p>遊ばなくなったおもちゃの交換と様々なワークショップ体験。</p> <p>●とき: 13:00~16:00 ●対象: 子ども</p>	<p>3月30日(金)</p> <p>吹田市市民公益活動の支援補助金説明会</p> <p>4月に公募される、吹田市の補助金制度について説明します。</p> <p>●とき: 19:00~20:30 ●定員: 先着20名</p>	<p>毎月違うテーマで。テーマカフェ</p> <p>3月29日(木)</p> <p>施設の活用方法を考える Vol.1</p> <p>地域の宗教施設を防災拠点として活用することの可能性を探ります。</p> <p>●とき: 19:00~20:30 ●定員: 先着15名</p>
	<p>▼お申込み・お問い合わせはラコルタまで ※費用が明示されていないイベントは無料。※申込期限の記載がなければ前日まで。</p>			
	<p>TEL: 06-6155-3167 FAX: 06-6833-9851 Eメール: info@suita-koueki.org</p>			
	<p>指定管理者 NPO 法人 市民ネットすいた</p>			

**編集ノート** 小学校でのプログラミング教育が2020年より必修化となりますが、プログラミングが目される背景には、ITの普及だけでなく、物事を論理的に考え、解決していく力が身につくからだとされています。ロジカルシンキングと言われるこの力は、地域や社会の様々な場面でも役立つのではないのでしょうか。(春貴)

<発行責任者> 柳瀬真佐子  
<編集スタッフ> 茨木由美・春貴勇力・宮村佳子・森戸秀次・矢野真里加 (五十音順)

# ラコルタ

吹田市立市民公益活動センター

VOL.22  
出会う→集う→育てる→実る

- 表紙: [Be Social] 第7回
- 中面: 特集 / ITで挑む地域課題!
- うら: ラコルタの取り組み、講座・イベント

「市民公益活動」は市民が自発的に行う社会貢献活動です。市民公益活動センター(愛称:ラコルタ)は市民の力で吹田市をより良いまちにするため、これらの活動を支援しています。



私たちが暮らす地域や社会の事を他人事ではなく自分事にする。そういった「ソーシャルな生き方」の魅力をお伝えします。

表紙の記事については、都合により非公開とさせていただきます。

2024年3月29日 更新

**やってみよう! ボランティア体験! ぷちボラ**

ボランティア経験のない方でも気軽に参加できます。単発・短時間で体験してみませんか?

(例) お掃除・小物作り・映画会アシスタント・喫茶・お弁当作り・竹林整備・まち歩きなど。

**ボランティア・NPO 初歩講座** 出前講座も受付中!

興味のある方・活動しているがもっと理解を深めたい方など。

- 3月18日(日) 13:30~15:00
- 4月17日(火) 19:00~20:30
- 5月16日(水) 10:30~12:00

各定員10名 毎月開催

# ITで挑む地域課題!

～シビックテックをはじめよう～

東日本大震災以降、市民がITを活用し、地域課題を解決する“シビックテック”の取り組みが全国各地で広がりを見せています。WEBサービスやアプリケーション(以下、アプリ)の開発など、専門家にしかできない分野・領域から、既存のサービスを活用したまち歩きイベント開催など、その取り組み内容は多岐にわたっています。

一方、2016年12月に官民データ活用推進基本法が施行されました。これは各自治体で、行政手続きのオンライン化や、オープンデータの取り組みなどを進めていくことが目的とされています。特にオープンデータが進むことにより、官民協働による取り組みがますます盛んになっていくと期待されています。こういった情勢を踏まえ、本号ではITを活用した、これからの市民公益活動の可能性について考えます。

## 3 知っておきたい のキーワード

**シビックテック**  
Civic (市民)+Tech (テクノロジー)による造語。  
ITを活用し、市民の力で地域課題を解決しようという  
考え方や活動。

**Code for ~ (コード フォー)**  
シビックテックに取り組むコミュニティで、  
Code forの後ろには地域名が入る(Codeとは、  
プログラミング用語に由来)。  
法人格を有する団体もある。

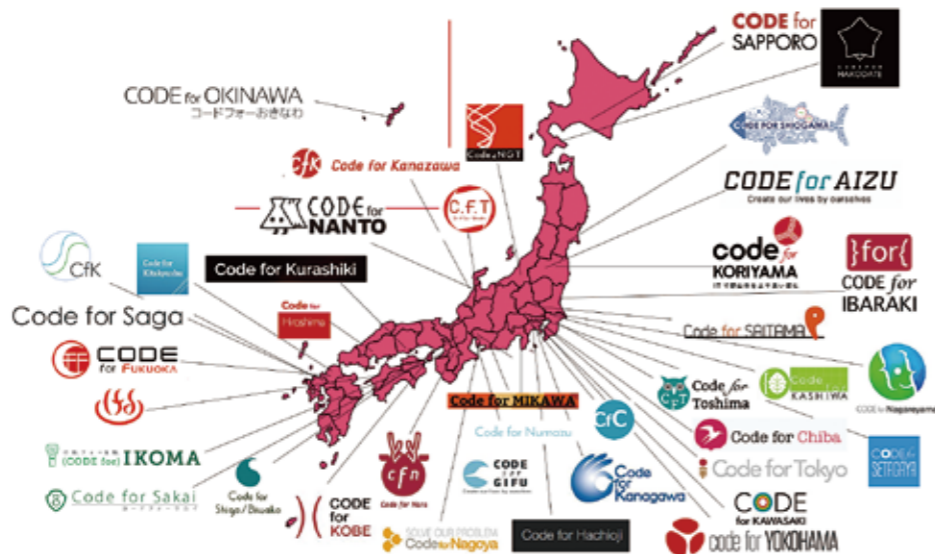
**オープンデータ**  
商用・非商用に関わらず、二次利用が  
可能であるというルールに基づき、  
汎用性がある形式で公開されているデータ。

## 多様な人がつくる日本のシビックテック

一般社団法人 コード・フォー・ジャパン 事務局長 陣内 一樹

2007年にNEC入社。2013年復興庁に出向し、福島県浪江町役場に勤務。  
避難中の町民向けアプリの開発事業などを担当。2017年4月から現職。

シビックテックはアメリカをはじめとした世界各国で活発に行われています。その中で、日本のシビックテックの特徴としてあげられるのは、活動している団体の多さと多様性です。



各地域で活動している“Code for~”のロゴと名称

シビックテックはITを活用して地域課題を解決する活動ですが、課題解決は技術がある人だけではできません。また、IT以外の要素も重要になります。そのため、課題を抱えている人やアイデアを出す人など様々な人が参加し、

日本には“Code for~”と名乗り、シビックテックの活動をしている団体が全国に80以上あり、世界的に見ても非常に多いです。また、各団体の活動内容も非常に多様です。定期的な勉強会やアプリなどの開発の他、アイデアワークショップや地図づくりなどのイベントも行われています。団体の規模も数人~40人程度までと様々です。

各地の活動内容が多様であることの大きな要因は、活動メンバーが多様であることです。シビックテックという言葉からは、活動に参加している人がエンジニアなどITを専門にしている人たちがほとんどだと思われるかもしれませんが、実際には、エンジニアの比率は四分の一程度で、公務員やIT以外の会社員、行政区長、専業主婦など様々な方が参加しています。

一緒に活動を行っています。主体的に地域のことを考える人たちが集まり、行動へとつなげていく場であること。それがCode for~の重要な役割です。

そして、活動が活発な地域ではメンバー同士の仲が良いことに加えて、継続的に新たなメンバーが入ってきています。そのために、子連れでも参加しやすい工夫や雰囲気など、誰もが参加しやすいような配慮がされています。また、意識的に学生や若い社会人など、普段はあまり地域活動に参加しない人々を積極的に誘っている地域もあります。

今回、新たに立ち上がった“Code for SUITA”も多様なオープンな活動を進めていって欲しいと思っています。そして、ぜひシビックテックの活動自体を楽しんでください。

## オープンデータの活用事例



### ごみ出しの日がわかる 5374.jp (ゴミナシ.jp)

5374.jpは、自分の住んでいる地域を選択すれば、一番近いごみ出し日の情報が表示されるサービスです。2013年にCode for Kanazawaが開発し、金沢市がオープンデータとして公開しているごみ収集の情報を活用しています。

5374.jpの仕組みはWEB上で公開されており、金沢市以外の地域でも無料で取り入れることが可能です。2017年末現在、117以上の地域で活用されており、国産初のシビックテックアプリとして全国各地で広がりを見せています。



<http://5374.jp/>

色でゴミのジャンルを表示  
捨てられるゴミの一覧も見られる

## 吹田市内の動き



### Code for SUITA スタート!

2017年8月、シビックテックをテーマにした勉強会をラコルタが開催し、市民公益活動団体や吹田市、事業者、大学関係者など26名が集まりました。

ゲストに、Code for IKOMA代表の佐藤拓也さんをお招きし、生駒市内での取り組みやオープンデータの定義などについてお話しいただきました。

その後、NPO法人市民ネットすいたがCode for SUITAの呼びかけ人となり、情報交換や5374.jp吹田市版の試作など、シビックテックの取り組みが進められています。



8月に開催した勉強会の様子

事務局：NPO 法人市民ネットすいた  
<https://ja-jp.facebook.com/code4suito/>

### スマホで巡る 千里山

ITを活用!

2016年7月から8月にかけて、千里山商栄会が主催となりモバイルスタンプラリーが開催されました。これは、専用のアプリをダウンロードすれば、あらかじめ登録された場所で、電子スタンプが押される仕組みになっています。商店や、まちの名所、防災といったテーマごとにコースをわけ、全123か所にラリーポイントが設置されました。

千里山は転入者や関大生が多く住んでおり、若い世代の人に地域のことを知ってもらいたいという思いで取り組まれました。30ポイント集めた人には記念品などが進呈され、およそ150名の方が参加されました。



地域の歴史や住民目線の情報も知ることができる